

神戸大学生生活協同組合

~~Future!~~

関西
a
なまはらあめこさん

Career Support
by Kobe Univ. CO-OP

アクセント
サンエース
スミセイ情報システム
中西金属工業
日本生命保険
ハイレックスコーポレーション
パソナグループ
森合精機

2019年度増刊号
関西企業特集



本冊子は、関西で活躍する・関西から活躍する、企業を紹介しています。
「関西で働きたい！」人にも、「何となく東京での就職を考えている」人にも、
刺激や感銘を与えてくれることでしょう。

また、それぞれの企業で活躍する、神大OB/OGの方々にも取材させていただきました。文系・理系、学部生・院生など、自分に近い先輩の就活や仕事に対する思いや経験を知ることができます。

GUIDE

本冊子を最大限活用するための
5つのおすすめ読み方ガイド！！

- オスX1.....自分が興味のある業種から読む！
- オスX2.....自分と似ている先輩から読む！
- オスX3.....自分が興味のある取材テーマから読む！
- オスX4.....バックナンバーも読む！（生協キャリアサポートのHPに掲載）
- オスX5.....『**関西で働く!企業との交流会**』の予習に使う！

関西で働く!企業との交流会

1/16(木) @鶴甲第1キャンパス
16:30-20:00 **国際文化学部食堂南側多目的ホール**

-  関西で働く良さや企業の魅力が分かる
-  ワークライフバランスについても質問できる！
-  ゆったり企業と話せる（ドリンクバー併設）
-  学内開催 & 服装・入退場自由なので参加しやすい

参加企業一覧(予定)

アクセントチュア サンエース 滋賀銀行 スミセイ情報システム
TOYO TIRE 中西金属工業 日本生命保険
ハイレックスコーポレーション パソナグループ 三菱マテリアル
森合精機 りそな銀行(りそなグループ) ※赤字は本紙掲載企業

関西で働く!企業との交流会
申し込みフォーム▶▶▶▶▶▶



04 ^{/05}	アクセントチュア株式会社 ----- 『成長を止めない環境と制度』/『この会社だからこそ、“人”の魅力』	 コンサルティング
06 ^{/07}	株式会社サンエース ----- 『事業は人なり。理念経営ができてこその実績』/『サンエースだからできる提案、得られる達成感』	 不動産
08 ^{/09}	スミセイ情報システム株式会社 ----- 『人を育てる風土』/『縁の下の力持ちとして、会社の資産を守るという使命』	 ITサービス・ソフトウェア
10 ^{/11}	中西金属工業株式会社 ----- 『個性が新しい視点を生む』/『縁の下の力持ち』	 機械
12 ^{/13}	日本生命保険相互会社 ----- 『「働きやすさ」を牽引する、リーディングカンパニー』/『「人の会社」だからこそ「人の魅力」』	 生保・損保
14 ^{/15}	株式会社ハイレックスコーポレーション ----- 『「リスペクト」が世界を繋ぐ』/『海外での経験をどのように生かしていくか』	 自動車・自動車部品
16 ^{/17}	株式会社パソナグループ ----- 『信頼できる人たちが、長く楽しく働けるように』/『ここまで様々な人と関われる仕事って珍しいと思います』	 人材サービス
18 ^{/19}	森合精機株式会社 ----- 『「開発」と「開拓」が新たな一歩を支える』/『会社を通じて社会に貢献していきたい』	 機械

THEME

取材テーマ別企業情報

- ▶▶ 理念・ビジョン  06 株式会社サンエース
- ▶▶ 成長性  04 アクセントチュア株式会社
18 森合精機株式会社
- ▶▶ グローバル性  14 株式会社ハイレックスコーポレーション
- ▶▶ 社風・風土  08 スミセイ情報システム株式会社
10 中西金属工業株式会社
12 日本生命保険相互会社
16 株式会社パソナグループ

STAFF

この「関西企業特集」は、
神大生が、取材・執筆を行いました。

- 【取材】 今西 三千絵 ----- 農学研究科 2年生
高槻 大貴 ----- システム情報学研究科 2年生
柳田 晏良 ----- 文学部 4年生
藤田 奈菜子 ----- 経営学部 4年生
神田橋 文恵 ----- 理学部 2年生
宮村 聡子 ----- 一般財団法人 キャリアカウンセリング・センター
小嶋 洋子 ----- 神戸大学生協キャリア・就職支援企画課
キャリアコンサルタント
宅美 ゆかり ----- 神戸大学生協キャリア・就職支援企画課
- 【表紙】 神田橋 文恵 ----- 理学部 2年生
【編集】 辻本 大地 ----- 農学部 2年生



業種: コンサルティング 拠点: 大阪

会社・仕事紹介

取材テーマ
▶▶ 成長性



テクノロジーコンサルティング本部
ソリューション・エンジニア

近石 壘さん

事業内容・注目点

アクセンチュアは「戦略」「コンサルティング」「デジタル」「テクノロジー」「オペレーションズ」の5つの領域で幅広いサービスとソリューションを提供する世界最大級の総合コンサルティング企業です。40を越す業界とあらゆる業務に対応可能な豊富な経験と専門スキルを生かし、ビジネスとテクノロジーを融合させて、世界120カ国以上のお客様のハイパフォーマンス実現と、持続可能な価値創出を支援しています。

社風・風土

オープンな企業文化
"シンプルに考え、ストレートに伝える"
立場や年次に関わらず自分の考えを率直に伝えることが歓迎される、アクセンチュアのカルチャーを表す際によく使われる言葉です。

関西で働く魅力

イノベティブで、IoTをはじめとするデジタルへの感度が高く、グローバルでビジネス展開を加速させている企業・組織が数多くある関西に根を下ろし、長きにわたるパートナーとしてお客様の成長に貢献ができます。

成長を止めない 環境と制度

外資系企業として、様々な業界のお客様に対しコンサルティング業務を行うアクセンチュア株式会社。毎年就活生にも大変人気があるこの企業には、就活生が知る以上に深い魅力があった。

アクセンチュアは先端テクノロジーを活かし、様々な業界の企業・公的機関の課題解決を支援する総合コンサルティング/ITサービス企業である。戦略・コンサルティング・デジタル・テクノロジー・オペレーションズ・セキュリティの6つの領域でサービスを提供し、取引のある業界は、製造・金融・IT・医療など多岐にわたる。

お客様が抱える課題の解決を支援し、お客様を「あるべき姿」に導く。これが、アクセンチュアで働く方々の使命である。日々お客様の要望を聞き、議論を進めていく。しかし、お客様の意見を聞くだけでは「あるべき姿」へは近づけない。今回インタビューにお応えいただいた近石壘さんはこう語る。「アクセンチュアのカルチャーを表す言葉に『Think straight Talk straight』というのがあります。相手が上司であっても物怖じせず、シンプルに考えて、どんどん提案できる環境があります。それはお客様に対しても言えることで、自分が持つシステムに対する知見を元に、良いと思ったことは率直に発言して、お客様とともに決めていく。これが、本当の意味でお客様のためになるんです。」

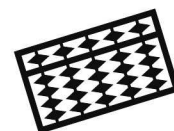
日本だけでなく世界中で著しい成長を遂げているアクセンチュアでは、社員一人一人の成長を促す制度も充実している。社内での勉強会やオンラインのトレーニング、さらには技術を社外にも学びに行ける機会があるなど、自分の成長につながることは、どんどん積極的に取り組める環境がある。また、直属の上司とは異なる、キャリアカウンセラーと呼ばれる社員が個別についてキャリア構築をサポートする制度がある。自分のキャリアについて、同じ部署で働く人には言いづらいことも相談できる。また、社内の募集中ポジションを自由に検索し、応募できる社内の転職サイトがあるのも驚きだ。まさに、自分のキャリアは自分で作っていくのである。

会社・社員ともに成長を止めない。アクセンチュアは、未来への可能性に満ちている。

OB・OG紹介

テクノロジーコンサルティング本部
ビジネス・テクノロジー
コンサルタント

高梨 紗さん



2017年
経営学部経営学科 卒業

この会社だからこそ、 “人”の魅力

入社2年目の高さんは入社当時、システム開発に重きを置いたプロジェクトに参加し、システム設計やテストを実施するチームに所属。そして現在は、システムを作るための経営計画などに携わっている。

現在のお仕事のやりがいは、1年目に現場のエンジニアと近い立場で仕事をされていたこともあり、経営計画に携わる今でも、現場の人々に対する理解をもとに提案ができることだと言う。アクセンチュアの、上下関係なく率直に発言できる環境を活かし、現場のエンジニアとプロジェクトの責任者を繋ぐ役割を果たしている。

アクセンチュアとの出会いは、OB・OG訪問がきっかけだったそう。「こんな人たちと仕事ができればいいなと思う会社」をまずポイントとし、就職活動を進めていた高さんは、説明会だけではわからない実体験を聞くために、アクセンチュアで働く神戸大学出身者と直接、話をしてみた。すると、だんだんアクセンチュアに魅力を感じるようになり、またその方は高さんが抱えていた悩み事に対しても、非常に親身になって話を聞いて

くれたそうだ。「私は、舞台芸術などのお仕事にすごく興味があって、『そういった業界のお客様はいませんよね』と尋ねると、『一つのパワーポイントや資料を作るのにもデザインが大切ですよ。舞台芸術の枠にははまらないかもしれないけれど、何かをデザインするっていうのは、ビジネスの分野でも同じことですよ』とお話をしてくださいました。そんな見方もあるのかと目から鱗が落ちました。」私の悩みに対しても答えてくださったということは、仕事でもきっといろんな人々の課題を解決されているに違いない。高さんにとってそれが、アクセンチュア入社を決め手になった。

技術開発やイノベーション創出の精鋭集団であるアクセンチュアには、率直に意見を交換し、困った時には協力しあえる、情に溢れた人々がたくさんいる。

株式会社サンエース



業種:不動産

本社:兵庫

会社・仕事紹介

取材テーマ
▶▶理念・ビジョン

事業は人なり。 理念経営ができてこそその実績

創業以来、70年連続で黒字経営を実現している株式会社サンエース。それだけではなく、経済産業省主催で全国から100社のみが選ばれる「おもてなし経営企業選」に選出、さらには「健康経営優良法人」に2018年・2019年の2年連続で認定されるなど、まさに「三方よし」を確実に実現している企業である。神戸市の御影に本社を置くサンエースには、一体どんな魅力があるのだろうか。

株式会社サンエースは、1949年に塗料販売店として創業したのが始まりである。現在は、オートサプライヤー事業とリフォーム事業の2つを主軸に確実に収益を上げながら、その他の事業への拡大も進めている。オートサプライヤー事業とは、自動車の修理などをする钣金・塗装工場に向けて、主に自動車補修用塗料を販売する事業である。サンエースはこの業界でのNo.1企業であり、いわゆるニッチトップなのである。またリフォーム事業では、「サンカラーズリフォーム」という自社ブランドを展開しており、中でも神戸北にある店舗は兵庫県最大級の規模を誇るショールームである。

そんな実績を持つサンエースが経営を進めていく上で一番大切にしていること、それは理念経営である。サンエースには、会社の考え方を成文化した全36ページにわたる冊子「サンエース物語」が存在し、入社した社員に必ず手渡されるという。この「サンエース物語」は、阪神淡路大震災の翌年、改めて社員の考え方を1つにするために、当時の社長が全て手書きで作成した。中を開くと、「人はなぜ働くのか」と書かれてあり、その後、社会人として働く上で意識すべきことが丁寧に記されている。サンエースでは、この「サンエース物語」の中に書かれている「人としての成長」(自分と自分の周りを幸せにするための自己成長)が全社員にしっかりと教育され、浸透している。企業としての売上目標はあるが、それは、手段でしかなく、目的は自己成長だという。「サンエースの考え方というのは世の中の原理原則から外れていないと思っています。だからこそ当社は、70年にわたり継続してこられたし、これからもそこがぶれない限り、世の中がいくら変わっても当社は世の中のためにお役に立てるのではないかと考えています。」事業は人なり。全社員が理念を礎に、努力を惜しまず誠実に歩んできたサンエースは、100年企業を目指し、すでに次の未来を見据えている。



代表取締役

中山 勇人 さん

事業内容・注目点

【創業以来70年間連続黒字経営、自己資本比率84.2%】神戸本社の優良中小企業! 神大OBOG活躍中! 業界全国No.1のオートサプライヤー事業部(専門商社)は業界のリード役! 当社創設の全国組織『トップネット』は、プライベート商品190品目以上です。リフォーム事業部は地域密着型。神戸最大級のショールームもオープン! さらにこの春「不動産」の新事業を開始! 立上げメンバーに新入社員も抜擢されています。

社風・風土

サンエース最大の特長は「理念経営」。職場を自己成長のための「道場」と定め、「皆揃って幸せになりたい」の実現を目指しています。そして社員一丸となって『100年企業』に向けて日々仕事に励んでいます!

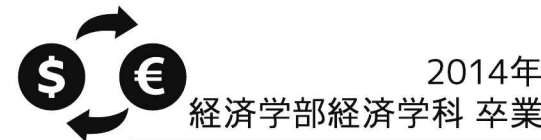
関西で働く魅力

「お客様の喜びを肌で感じられる」。これが地元密着企業の最大の喜びの一つです。神戸で創業して70年。常に目の前のお客様の幸せを追求しながら事業展開を続け、抜群の経営安定を実現しています。

OB・OG紹介

オートサプライヤー事業部(営業) チーフ

阿部 佑起 さん



2014年

経済学部経済学科 卒業

サンエースだからできる提案、 得られる達成感

阿部さんは最初、サンエースの社員が皆「おはようございます!!!」ととても元気に挨拶したことに驚いたという。阿部さんのサンエースとの最初の出会いは、社長が登壇した説明会だった。そこで印象に残ったのは、社員の元気のいい挨拶だけではない。実際に社長が直に学生に向けて、サンエースとはどんな会社か、どんな思いで経営をしているかということをお話してくださったのも、深く記憶に残った。その後、採用選考が進む中で多くの社員とも話をし、社員が仕事に対して持つ様々な思いや希望にも触れることができ、「こんな人たちと働いてみたい」と強く感じたそう。

現在阿部さんは、オートサプライヤー事業部で営業をされている。钣金工場や車の修理工場などのお客様の所に足を運び、商品や設備の提案をする。このお仕事のやりがいや、「お客様に対する自分の提案や思いが実際に形になっていくこと」だと答えが返ってきた。商品を買ってもらうだけではなく、今お客様には何が必要なのかを真剣に考え、提案していく。そ

れが実現したときの大きな達成感や、お客様から「ありがとう」の声をもらえること、お客様との関係がだんだん深くなっていくことの喜びが、この仕事にはあるそう。さらにサンエースなら、塗料・钣金・工具など工場に関する様々な商品を扱っているため、工場での作業全体に関わることができ、お客様をトータルにサポートすることが可能だという。これは、塗料販売店から始まり事業を広げていったサンエースのルーツがあるからこそできる仕事なのである。

最後に、阿部さんから神大生へ向けてメッセージを頂いた。「これから就職活動を迎える学生さんは、時間のある限り、いろんな企業をもっと見てもらいたいです。ネットや文章だけで見るのではなく、直接たくさん話を聞いてみてください。そして、『何がしたいのか』にプラスして、『どんな人と働きたいか』ということも考えて、企業選びをしてほしいです。就職がゴールではないので、その先を見据えることが、大切だと思います。」



会社・仕事紹介

取材テーマ
▶▶社風・風土



個人保険システム部
上席システムエンジニア

山崎 雄大さん

事業内容・注目点

【2020年入社3名内定!】スミセイ情報システムは、住友生命グループのIT戦略の中核を担う企業として、得意分野である金融システムを主軸に公共・サービス等、幅広いフィールドでICTソリューションを展開しています。特に若手研修は業界トップクラスを誇り、入社5年間でSE基礎力を身につけ、各自の強みを活かして活躍しています。2016年「えるぼし」最上位の3段階目の認定!

社風・風土

あなたの強みはなんですか? 1人ひとりが能力と特性を活かして働ける会社です! ITの仕事に必要なのは好奇心と向上心。年齢は関係ありません! 挑戦した分、スキルが身につきます。

関西で働く魅力

【住友生命グループ】住友の発祥は大阪。私たちスミセイ情報システムも関西で生まれた会社です! 大阪・東京の2本社制、大阪で働く社員は6割以上!

人を育てる風土

「保険の営業の方が仕事を進めやすくするためのシステムを開発しています。」多いときは100人を超えるチームでプロジェクトを進めることもあるという山崎さん。業務上、自社以外の人も連携しながら仕事を行うことが多いという。自社以外の方と関わる中で、改めてスミセイ情報システムの特徴的な社風だと感じるのは、風通しがよく、上司との距離感が近いことだそうです。若手の意見が採用されることも多い。上司と食事に行く際には、よく仕事の相談をします、と山崎さんは話す。

スミセイ情報システムには、「人を育てる」風土がある。文系専攻からエンジニアを志す新入社員も多く、5年間かけて1人前のシステムエンジニア(SE)に育て上げる方針だ。配属先で実践経験を積む前に、研修で基礎的な知識を身につける。さらに、入社後すぐは、新入社員1人ずつに若手の先輩社員がマンツーマンでつき、仕事からビジネスマナーまで、会社生活についてのサポートをする。「ナビゲーター」と呼ばれるこの制度は、もう20年以上も前から続く。また、研修期間中は、新入社員は自分の机を決まった場所に持たない。定期的に席を移動するのだ。この仕組みによって、より多くの社員とコミュニケーションをとることができる。フロア全体の先輩社員で新入社員の面倒を見る、という感覚だ。

次々と新しいテクノロジーが台頭する昨今、歴史あるシステム会社の多くは転換期にいる。重要なのは、「変化に柔軟に適應できる人材」であることだと山崎さんは語る。自ら進んで新たな技術を学び、取り入れていかなければならない。そのための仕組みが整っているところも、スミセイ情報システムの魅力だ。中堅・若手社員の有志によって立ち上げられる「R&Dラボ」もその一つ。最先端の技術を学び、ビジネスにつなげるための勉強会のことだ。「学生の時よりも勉強しています。変化の激しいこの業界の中、知識と技術をもって、人を巻き込んで仕事のできるSEでありたいです。」日々パソコンだけを相手に仕事を行うイメージの強いSEだが、一緒に仕事をする仲間はもちろん、最終のお客さまも人間である。どれだけ多くの人を巻き込んで仕事を進められるかどうか、SEの腕の見せ所だ。現状に満足することなく、常に向上心を持って仕事に取り組む山崎さんの姿勢に、エンジニアとしてのプライドと情熱を感じた。

OB・OG紹介

基盤システム第2部

伊藤 優香里さん



2016年
発達科学部
(現 国際人間科学部)
人間表現学科 卒業



縁の下の力持ちとして、 会社の資産を守るという使命

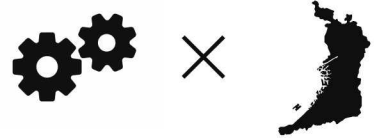
就職活動の際には、「仕事を通してスキルを身に付けたい」という思いから、システムエンジニア(SE)という職種に焦点を当てた伊藤さん。メーカー系からユーザー系、ベンチャー色の強い独立系まで、幅広く会社をみてまわった。「自分にとって何が1番大事か」を常に自問しながら、とにかくいろいろな会社へ足を運んだそうだ。その中で、「ここで働きたい!」と思えたのがスミセイ情報システムだった。理由は、社員の方々の穏やかな人柄と、居心地の良さ。「自分が自然体で居られるところがいい。面接官だった方が、入社後も名前を覚えてくださったりすることもあります。書類選考は無いし、大学名も聞かれない。本当に、人柄を見て採用してくださったのだと感じます。」と当時を振り返る。ちなみに、スミセイ情報システムの女性社員は440人ほど、全体の約1/3を占める。うち3人に1人は子育て中と聞いて驚いた。時短で働く人も多いそうだ。

伊藤さんの仕事内容は、基盤システムの保守。お客様に関するあらゆる情報をデータベースとして格納する「入れ物」の管理をする。いわゆる「縁の下の力持ち」であるこの部署は、入社後半年間の研修を経て、自ら希望した。大学では、発達科学部(現在の国際人間科学部)で音楽を専攻していた伊藤さんは、入社

後の研修にてゼロからシステムに関する勉強を始めた。長年にわたって蓄積された顧客情報を含むデータベースは、まさに「会社の資産」であり、それを守るという責任感と使命感を持って仕事ができるところが、大きなやりがいだ。

「現状のシステムは、いつか新しいシステムに変えなければならない。近い将来、かなり大規模な入れ替えがあることが予想されます。その時に、中心となって仕事を進められる人間でありたい。」と伊藤さんは話す。そのためには、あらゆる変化に目を向け続け、勉強する必要がある。新聞を読んだり、社内での情報共有ツールを活用したりと、情報収集は怠らない。保険を自動化する技術として近年注目を集める、ブロックチェーンの研究をしている人を社内報で確認し、お話を聞きに伺うこともあるそうだ。拝見した社内報には、さまざまな資格の合格者がズラリ。これだけ多くの方が、向上心を持って熱心に学んでいることに驚いた。切磋琢磨とはまさにこのことか。「次はこの試験に挑戦したいんです」と、生き生きとした様子で語る伊藤さんに、揺るぎないチャレンジ精神をみた。

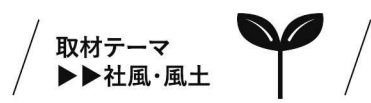
中西金属工業株式会社



業種：機械

本社：大阪

会社・仕事紹介



E事業室

福岡 滯奈 さん

事業内容・注目点

「社会にいい回転を～振り回されるな、振り回せ～」私たちが社会を回し、貢献したい。その思いが、NKCの95年の歴史と安定した成長を支えてきました。ベアリングリテーナー、コンベアシステム、住宅関連製品の主力製品がいずれも高いシェアを獲得。トップメーカーとしての技術力を発揮しながら、「次の100年」に向けて、新規事業も積極的に開拓しています。変革と成長を続ける、これからのNKCにも是非注目してください！

社風・風土

「やってみよう」を実現させていく社風です。フレックスタイムやテレワーク、副業など多様な働き方を取り入れ、物流・農業・エネルギーといった異分野へ積極的に事業進出したりと、自由闊達です！

関西で働く魅力

「おもろい」この一言に尽きると思いますが。人情味もあり、ノリも良い。そして何より未完成。みなさんがこれからの関西を、社会を、世界を作っていくんです。関西から世界を変えていきませんか？

個性が新しい視点を生む

中西金属工業株式会社(NKC)は大阪に本社を置き、軸受事業部・輸送機事業部・特機事業部の主に3つの事業部で構成されているBtoB企業である。NKCは創業100周年を迎えるにあたり、さらなる成長を目指し、新規事業の開発も積極的に行なっている。今回、新事業の中でもE事業室のアグリーノベーションチームで「agbee」の開発に携わっている入社2年目の福岡滯奈さんにお話を伺った。

「agbee」は農家の方々が思い描く「農家の来年」をキーワードに、収穫・計測・予測のサポートを行う「相棒」である。このプロジェクトは「小さなチームで、0から1をうみだそう。」という気持ちを原点にスタートし、「農業生活の中に「agbee」が「相棒」として寄り添っている」というビジョンのもとに全て手作りで開発されている。こうしたやってみようという思いを実現させる社風が異分野への進出の面で表れているのではないだろうか。

福岡さんは「agbee」を開発する中で、「自分が思ったことややりたいことは積極的に発言し、しっかり個性を出していきたい」と語ってくれました。こうした考えを持つに至った背景には、NKCでの環境がある。入社前は、社会人になったら上司に言われたことをやり、会社の駒になるというイメージを持っていた福岡さんだが、それぞれの目線で意見を遠慮なく主張している周りの環境がそうしたイメージを変えた。若手でも新しい目線を必要とされるので、自分の意見ややりたいことを言い、積極的に個性を出すようになったそうだ。

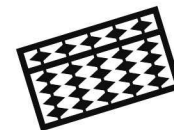
今では、同じ目標に向かってチームメンバーがそれぞれの思いや個性から生まれた意見を率直に言うことで、化学変化を起こし、開発に新しい視点を生み出せるという考えを持っている。

楽しそうに語る福岡さんの様子からは、年齢や立場に関係なく、しっかりと理由を持って手を挙げることで、周りが受け入れてくれ、自分の意志でやりたいことができる環境がやってみようという思いを実現させる社風に繋がっているのではないかと感じられた。

中西金属工業株式会社では100周年を新たなスタートとして、様々なプロジェクトが始まっている。自分の考えたアイデアややりたいことは前例がなければ作ってあげばいい。意思さえあればいくらでも変えられる環境がNKCにはある。

OB・OG紹介

輸送機事業部
企画部 管理グループ
谷敷 拓磨 さん



2009年
経営学部経営学科 卒業

縁の下の力持ち

経営学部を卒業された神戸大学OBの谷敷さんは、新卒で銀行に就職したのち、結婚後、関西で生活基盤を固めるため大阪に本社を置く中西金属工業株式会社への転職を決めた。現在では前職の銀行での経験を活かしながら、輸送機事業部の企画部管理グループで海外の子会社の経理や総務、人事に携わっている。

谷敷さんは海外での売上・資金管理、現地法人の昇給などの幅広い仕事を行ない、現地の人々をサポートしている。お話を伺う中で、企画部管理グループは「縁の下の力持ちである」という言葉が印象に残った。また、「この部署は直接売上に貢献する部署ではないが、自分たちがいないと円滑に仕事が回らないので、プライドを持って働いている。営業や技術、海外の現地の代表などの人たちが気持ちよく、円滑に仕事を進められるようにサポートするのは楽しい。この部署にいるからこそ海外を含め、全体を見渡せるやりがいのある仕事ができる」と語っていただいた。海外の子会社を担当しているのはほとんど谷敷さん一人だという。責任のある仕事をまかされており、采配することができることにもやりがいや面白さを感じるそう

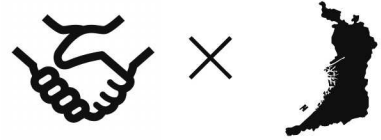
だ。どのような会社でも、営業や企画、開発だけで会社が回っているわけではない。それらを支える人がいないと組織は成り立たないということを改めて感じさせられた。

谷敷さんの今後の目標について伺った。「今でも様々な仕事を行なっているが、国内での損益管理や新商品を扱う時の会計処理、人材配置や組織編成などを将来的にやっていきたい」と考えているそうだ。そのために谷敷さんは、自分の業務をすすめる上で、さらに一歩先の目線を意識して上司の立場だったらどのように考えるのかという視点でも仕事に取り組んでいると教えてくださった。

最後に神大生へのメッセージをいただいた。「転職して思うのは、どのような仕事にでもやりがいは見つけられるということ。就職活動や転職活動では自分の考えを変えるきっかけになるかもしれないので、是非色々なところに足を運んでもらいたいと思う。」

キャリアを積んだ現在でも、やりがいと目標を持ち、成長していこうとする谷敷さんの姿からはこれからますます活躍の場を広げていけるのだろうと感じられた取材であった。

執筆者/システム情報学研究所 高槻 大貴



会社・仕事紹介

取材テーマ
▶▶社風・風土



「働きやすさ」を牽引する、リーディングカンパニー

リーディングカンパニーとして生命保険業界を牽引する日本生命保険相互会社。永きにわたって多くのお客様との信頼関係を築いてきた日本生命は、お客様だけでなく、社員にも優しい経営を続けている。

日本生命では社員の中で女性の比率が高いため、産前産後休暇や育児休業、介護休業などの支援制度が数多くある。しかし、それだけではない。制度が充実している上に、取得率が極めて高いのである。女性社員の制度利用率が高いことはもちろんだが、なんと、男性の育休取得率が2013年度から6年連続で100%を記録しているというから驚きだ。人材開発部 兼 輝き推進室の北さんは次のように語る。「制度そのものは存在していても、実際にはまだ浸透していないという企業がある中、当社はもともとそういうことが根付いている会社だなと感じています。」さらにダイバーシティ推進に向けた取り組みも盛んに行われており、例えば、女性活躍推進に関しては、管理職登用に向けたスキルアップを目的とした継続的な育成機会が用意されているそうだ。

また、北さんによると、社員同士のつながりが強いことも日本生命の特徴だという。「人脈によって仕事が円滑に進むというのをすごく感じます。日本生命には本当に多くの部署があり、たくさんの方が働いているのですが、そんな中でも人と人の距離が近いというか、そういうことを感じながら仕事ができることが多いかなと思います。」年次が近い、同じ所属部署からの出身など、何かしら共通のものがあればすぐに打ち解けられるのが、日本生命の社員なのだそうだ。

人とのつながりを大切に、事業を進める日本生命。お客様のために何が出来るかを常に考えるのももちろんのこと、社員の働きやすさにも日々磨きをかけている。さらに近年注目されているCSR活動にも力を入れ、広く社会的責任を果たしているという。日本生命はリーディングカンパニーとして、生命保険業界、さらには日本の企業全体を牽引し、これからも企業のお手本となるに違いない。



人材開発部 兼 輝き推進室
北 愛美 さん

事業内容・注目点

1. 生命保険業(個人および企業向け各種保険商品の引受・保全サービス)
2. 付随業務・その他の業務(有価証券投資・貸付・不動産投資など受託資産の運用、付随業務)

日本生命にはリーテイル、ホールセール、資産運用、海外事業など幅広い業務領域が存在します。やりがいのあるフィールドが、日本生命には広がっています。

社風・風土

日本生命は、1,377万名のお客様から67兆円の資産をお預かりする生命保険業界のリーディングカンパニーです。「世界一の安心を提供する企業」を目指して、常に戦略的な挑戦を続けています。

関西で働く魅力

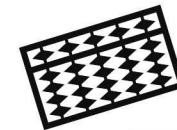
創業の地である大阪には、お客様サービス向上にむけて企画・運営を行う「お客様サービス本部」を構えています。日本生命ブランドが根付く関西でお客様視点を大切に、お客様を身近に感じながら働くことができます。

OB・OG紹介

人材開発部
黒岩 洋貴さん



2019年
経営学研究科
現代経営学専攻
(MBAプログラム) 修了



「人の会社」だからこそその「人の魅力」

2008年に入社された黒岩さんは、不動産部・主計部を経て、現在は人材開発部で勤務されている。不動産部では、お客様から預かったお金を運用する機関投資家の役割を担い、主計部では、会社の決算などの仕事を行ってきたそうだ。中でも主計部で、生命保険会社各社で採用される会計のルール作りに携われたことが印象に残っていると言う。そして今は、近畿圏の採用を担当し、試行錯誤しながら学生に向き合っている。「真剣に本当に行きたい企業を目指している学生さんと、日本生命の魅力を伝えたいという我々の思いがマッチして実を結んだ時の喜びは大きいです。」と語ってくれた。

このようにキャリアを積んできた黒岩さんは、「人との深い関わりの中で信頼を作れる仕事」を軸に就職活動をしていたそうだ。日本生命に興味を持ったきっかけは、OB・OG訪問だった。出会う人が皆、リーディングカンパニーという立場に胡座をかくことなく、もっと上を目指していこう、社会問題などにもチャレンジし日本を良くしていこうという考えを持っていたことに感銘を受けたという。ここの社員の人たちとともに「信頼」を作り

たいと思い、入社を決めた。

ワークライフバランスについても話を伺った。黒岩さんは二人の子どもを持ち、それぞれのお子さんが生まれた年に育休を取ったため、既に2回育休を取得している。日本生命では、育休を取るのが当たり前になっているため、「取る、取らない」というより「いつ取るの」という話になるのだそうだ。自分が育休を取りやすいタイミングに向けて仕事を進めていくことで、必ず取得できる仕組みになっているという。

公私ともに充実ぶりがうかがえる黒岩さんに改めて日本生命の魅力は何かを尋ねてみると、「日本生命は関わる人すべてを大事にする『人の会社』と言えます。働いている人自体も非常に魅力的なんです」と、「人」に焦点が当たった答えが返ってきた。「日本を引っ張っていく責任感がある社員がたくさんいるので、我々のそんな思いに共感してもらえる学生さんにぜひ来て欲しいなと思っています」と熱いメッセージをいただいた。

株式会社 ハイレックスコーポレーション



会社・仕事紹介

取材テーマ
▶▶グローバル性



品質保証グループ担当
執行役員

三坪 昭夫 さん

事業内容・注目点

各種コントロールケーブル及び医療器具の開発・製造・販売
二輪・四輪、トラック・バス・特殊車両、建機等国内では、全てのメーカーに取引を頂き、海外でもアメリカ・韓国等自動車先進国から中国・インド・ベトナム等新興国まで拠点を持つ。ウインドレギュレータ、パワースライドドア他システム化した商品の開発や、そこで培った技術を最先端の産業、医療機器・福祉分野でも応用し社会に貢献しております。

社風・風土

日本の製造業の良いところを残して様々のことに挑戦してきた会社です。自動車業界への挑戦、世界への挑戦。今は医療器具へそのフィールドを広げ、また、次世代の車産業への挑戦を行っています。

関西で働く魅力

関西で働くというと『ローカルエリア』だと思われるかもしれませんが、『相手は世界』です。本社は宝塚にありますが、海外17カ国、日本を含め40を超える拠点から世界のカーメーカーに供給しております。

「リスペクト」が 世界を繋ぐ

株式会社ハイレックスコーポレーションは、兵庫県宝塚市に本社を置き、主に自動車部品のコントロールケーブルを扱うメーカーである。現在では北米やヨーロッパ、アジアなど18カ国40を超える拠点を持つなど事業をグローバルに展開しており、国内の多くの自動車メーカーをはじめ、海外の大手自動車メーカーとも取引を行い、この分野では世界トップクラスのシェアを誇る。

三坪氏が執行役員を務める品質保証グループでは、国際的な品質基準や自社で定めた基準に加え、各自動車メーカーの要求にも応じて製品の品質の維持に努めている。グローバル展開をしていく中では、環境が異なる土地で品質を保つ難しさがあるのだという。「現地で調達できる材料や部品を使用してどれだけ品質の製品が作れるのか」という課題から、「製品のバラつきを無くすための意識をどのように根付かせるのか」といった感覚の問題まで苦難は多岐にわたる。そのため現地のスタッフに理解してもらえるように地域に合わせた教育体制をしっかりと整えている。

こうした教育をはじめ、ハイレックスのグローバル展開を支える大きな特徴は現地の人々への「リスペクト」だと三坪氏は語る。三坪氏が設計者の主任として10年間アメリカに赴任した際は、上司はアメリカ人、同僚もアメリカ人という環境で、遠慮せずお互いに意見をぶつけ合い、時には共に夜を明かして働くこともあった。現地と日本との間で板挟みになる三坪氏の立場の難しさを人々は理解しており、互いに尊敬し合い支え合って仕事できていたという。

「人」はハイレックスのプレイヤーです。」ハイレックスでは、現地の人々は決して単なる労働力ではないという考えのもと、海外拠点のトップは日本人・現地スタッフが親会社・子会社の関係に拘わらず務めている。日本人だけが主体となってトップに立つわけではない。「当社は1970年代にアメリカに進出した際から他の日系企業とはやり方が異なり、社会に貢献し、そして現地に貢献するという考えがあった。海外の地で商売を許可してくれていることに感謝して仕事をしなさいと上司からも言われてきました。」三坪氏が語る「リスペクト」を育む理念は、これからもハイレックスコーポレーションの成長を支える屈強な基盤になっていると感じられた。

OB・OG紹介

海外事業管理グループ
国際チーム
柴谷 慶 さん



2013年
文学部人文学科 卒業

海外での経験を どのように生かしていくか

柴谷氏は現在入社7年目。生まれも育ちも宝塚で、以前からハイレックスの社屋は知っていたが、自身の出身地に世界トップシェアのカーケーブルメーカーがあることを知ったのは神大での合同企業説明会だという。他にも色々な業種を見ていたそうだが、元々車が好きで、自動車に関わる仕事がしたいという思いからハイレックスに入社した。

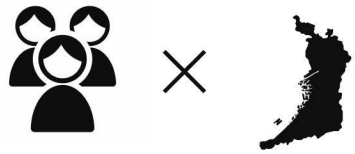
現在は海外事業管理グループの国際チームで働いており、様々な国や地域の拠点と輸出や輸入に関わる取引を担っている。海外のスタッフとは普段はメールでやり取りを行うそうだが、急ぎの場合には電話で直接話すこともあるという。商習慣や考え方も日本とは異なる部分が多く難しさを感じることもあるが、海外の人々とやり取りができ、仕事をしていく中で輸出入に関する貿易の知識を身につけられることがこの仕事の面白さであり、良いところだと柴谷氏は語る。

グローバルに事業を展開するハイレックスで働き始めて数年が経ち、実際に一年間メキシコに赴任する経験なども通じて、海外と日本での感覚の違いを肌で感じているという。「日本

だといつまでにやって下さいと指示を出すと殆どの方がやってくれるが、海外だとなかなか納期を過ぎても成果が出てこなかったり、何度も言わないとやり切ってくれなかったりということがある。」そのような慣れない環境の中でも、挨拶やお礼を必ずするように心がけ、スムーズに会話ができるよう事前に英語でメモを作るなど、柴谷氏は積極的に現地スタッフとコミュニケーションをとり、信頼関係を築いたという。

柴谷氏に十年後を見据えたキャリアプランを伺うと「海外拠点に出向したい。今後ますますグローバル化が進む一方で、まだまだ海外拠点のサポートが必要だと考えています。そのためには日本で学んだことを役立てて、逆に海外で学んだことも何らかの形で生かしたいですね。最終的には会社全体としてグローバル感覚を養いたいですね。正直まだグローバルという感覚が乏しいかなと。帰ってきてから気づいたことが色々ありますね。」とのこと。海外勤務での気づきを見逃さず、グローバル化を進める中での課題についてじっくりと考え、改善していこうとする確かな意志の萌芽がそこにはあった。

株式会社パソナグループ



業種: 人材サービス 拠点: 大阪

会社・仕事紹介

取材テーマ
▶▶ 社風・風土



株式会社パソナ
関西コーディネーター第1グループ
コーディネーター

池田 ゆきみ さん

事業内容・注目点

「社会の問題点を解決する」という企業理念のもと、誰もが活き活きと自由に働くことができるよう、いくつもの仕事のインフラを創るソーシャルソリューションカンパニーです。女性、若者、中高年の就労やキャリア構築の支援、ワークライフバランスの充実、企業のグローバル化支援、地方での地域活性化や就農支援などに取り組み、ゼロからさまざまな仕事のインフラを創造しています。

社風・風土

年齢・役職問わず、非常にコミュニケーションがとりやすい環境です。上司との距離も近く、日々のコミュニケーションの中でも小まめに意見を聞いてくださり、チャレンジを後押ししてくれます。

関西で働く魅力

関西の企業とエキスパートスタッフの橋渡しとして、就業開始までの仕事案内と、就業開始後安定就業頂くためのサポートをします。真摯に取り組むことで企業とスタッフの方に信頼して頂けることにやりがいを感じます。

信頼できる人たちが、 長く楽しく働けるように

パソナグループは、誰もが自由に自分らしく働けるよう様々な社会インフラを構築してきたソーシャルソリューションカンパニーだ。その企業理念は「社会の問題点を解決する」である。

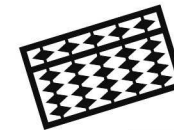
今回お話を伺った池田さんは、関西コーディネーター第1グループのコーディネーターとして関西企業の要望にあった派遣登録者を探しだす「アレンジ」と呼ばれる業務を主にされている。人材派遣業はパソナにとって最初の事業であり、今もなお主業務となる要の事業である。企業の要望と派遣登録者の希望が完璧に合うことは殆どなく、お互いが納得できるマッチングを実現するのは簡単ではない。やりがいのある一方、悩みも生まれやすい業務だ。そんな社員にとって味方となるのが、皆が自然に助け合う社内の雰囲気である。例えば、社内のチャットツールを介して色々な立場の人に質問・提案しやすい工夫がされている。またその範囲は、同じ立場の別チームの人や、コーディネーターを束ねる責任者、時には別の部署である営業部の部長にまで及び、垣根を感じることはない。また池田さん自身も、自分がそういう相談をしているからこそ、他の人の質問には積極的に答えるように心がけているという。

社員同士お互いに信頼し助け合うパソナだが、派遣登録者にも自信を持っているという。というのも、パソナは広告を打たず口コミだけで人を集めているのである。これは、パソナが満足度の高い雇用を生み出すことに重きを置いているからこそ実現できることだ。「派遣登録者の条件が企業とそぐわなくても、自信があるから妥協せず送り込めます。」と池田さんは言う。以前にも、残業は出来ないがとても優秀な派遣登録者と、フルタイムが当たり前と考える企業をマッチングさせたところ、残業なしで問題なく働くことができたそうだ。しかもそのおかげで、その企業の風土が変わってより自由な雰囲気になったという。登録者への信頼が一つの企業を動かしたのだ。これはたった一企業の話ではあるが、こうした小さな変化が「社会の問題点を解決する」ことに繋がっていくという。

企業とのマッチングまでではなく、働く人の生活を大切に長く働いていけるようサポートに万全を尽くすパソナでは、最終的に判断基準となるのは数字ではなく「それが本当に当事者のためになるのか」という視点だ。これも企業理念「社会の問題点を解決する」の形の1つである。企業理念の浸透と、自分らしく働くことの実現こそがこの会社の強みであり、簡単には揺らがぬ柱なのだと感じた。

OB・OG紹介

株式会社パソナ
人材紹介事業本部 大阪CSMチーム
リクルーティングアドバイザー
前田 南紀 さん



2016年
経営学部経営学科 卒業

ここまで様々な人と関われる 仕事って珍しいと思います

前田さんは神戸大学を卒業した後、パソナに勤め始めて現在4年目。池田さんとは異なり派遣事業ではなく人材紹介に携わっている。

派遣登録者は他の企業に斡旋されそこで働くが、パソナの社員であり、給料もパソナから支払われる。長く働いてもらうために、派遣事業では派遣先を決めるだけでなくその後のサポートも重視される。一方人材紹介は求職者と企業を結び付け、その会社へ入社させる仕事だ。入社までが仕事であり、そのためより慎重な判断が求められる。前田さんは人材紹介の事業の中でも、特に企業から希望を聞き中途採用の支援を行うリクルーティングアドバイザーの業務を行っている。訪問する企業の業種は建設不動産から税理士事務所、食品まで多種多様だ。

人材系というと毎日様々な企業や求職者の対応をする激務のイメージだが、パソナは比較的休日の多い会社だ。「土日には映画を観に行ったり、仲間と音楽をやったりしています」と前田さんは顔をほころばせる。前田さんは在学中音楽系のサークルに所属していた。今でも大学の音楽仲間とは繋がっているという。

業務の楽しさについて伺うと、企業と登録者の希望をすり合わせ合致させるのは容易ではないからこそ、やはり成約したときの

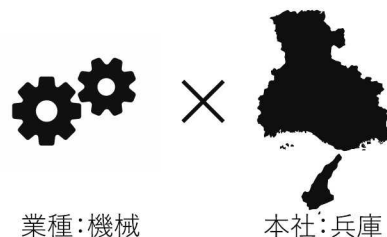
喜びはひとしおだという。他にも、登録者や企業の個性に合わせて毎回戦略を変える必要がある点があがった。試行錯誤の連続で飽きがこないのはこの業務の魅力の一つだ。

また、パソナに入ってよかったことは、色々な人とコミュニケーションがとれることだと前田さんは述べる。社内外の様々な人と関わり、自分の考えを広げる経験は学生時代には得られなかったものだ。多様な立場の人を知ることは成長に繋がる。前田さんはこの3年間で、自分だけではなく企業や登録者担当など周りの様々な人の事を考慮して働くことの大切さに気付いたという。前田さんはさらに、今はまだ業務の幅が狭いので、いずれは登録者担当を経験し、さらにはチームマネージャーを目指したいと語った。

今、就活中の神大生へのメッセージを伺うと、「学生のうちに自分がやりたいことを見つけ、行動して欲しい」と前田さんは答える。長く続けられる職と出会うコツは、条件ばかり気にした「逃げ」の姿勢ではなく、やりたいことを軸に据えたポジティブな考え方だという。前田さんの言葉にはこの3年以上の経験に裏付けられた重みがあり、身が引き締まる思いだった。

執筆者/理学部 神田橋 文恵

森合精機株式会社



業種:機械

本社:兵庫

会社・仕事紹介

取材テーマ
▶▶成長性



装置事業部 事業部長

森合 稔さん

事業内容・注目点

弊社は、工業用洗浄機、油圧機器、減速機の開発から販売まで手掛ける機械系メーカーです。特に工業用洗浄機においては、国内シェアNO.1であり、国内の自動車メーカー様を中心に、ご愛顧頂いております。いずれの製品もBtoB製品であり、日常生活において、目にすることはありませんが、世の中には溢れている製品であり、日本のものづくりを根底から支えています！

社風・風土

若手からベテランまで、年代関係なく、非常に元気なのが弊社の特徴です！定期的に社内イベント、社員旅行を開催し、仕事以外のところでも、繋がりを築く機会を設けることで、風通しの良い風土になっております！

関西で働く魅力

関西は、阪神工業地帯といったような工業をはじめ、様々な産業が、古くから盛んな地域だと思います。産業だけでなく、「お笑い」も盛んですよね！そういったように「仕事」も「遊び」も全力なのが、関西の魅力です！

「開発」と「開拓」が新たな一歩を支える

森合精機株式会社は、兵庫県明石市に本社をおく洗浄機・油圧機器・減速機を製造するメーカーである。主な取引先は自動車や建設機械等のメーカーであり、あらゆる部品を「洗浄する」という工程を担う製品を生み出し、多くのモノづくりを支えている。今回はこの洗浄機製造に携わる装置事業部の事業部長である森合稔氏にお話を伺った。

森合精機が洗浄機業界に参入したのは35年程前になるという。油圧機器事業を主力としていた当時、社内用に製造し始めた洗浄機を外へ販売するようになったのが装置事業部の始まりである。現在の主力となるシャワー洗浄機を30年程前から作り出し、平成17年には業界トップシェアを獲得した。お客様からよく言われている森合精機の強みは「提案する商品の多さ」だという。トップシェアを獲得する以前から「メーカーとして毎年新しい製品をつくる」という信念があり、年に1~2回行われる展示会には必ず新製品を出している。「現在の商品を守っていきただけでは先細りしてしまう。」森合氏は、新たな製品を「開発」し、新規の顧客を「開拓」していくことが、森合精機が成長し続けてこられた理由ではないかと語る。また顧客だけでなく人材の「開拓」にも注力している。森合精機ではベテランから若手まで幅広い年齢層の社員が働いているが、年齢に関係なく意見を出し合うことができ、互いに高め合える環境が整えられている。社長自ら全社員と話す機会を設けているというのも、全員が活躍できる土壌を育てているように感じられた。

「国内でも様々な洗浄機メーカーは存在しているが、カタログで提示する商品に加えて、細かな注文を受けて一品物も作れるメーカーは当社だけ。もしかしたら、洗浄機という点でいうと世界でも当社だけかもしれない。」そう語る森合氏の表情からは、製品や社員への自信と誇りが感じられた。新たな製品を毎年生み出し、新たな顧客を獲得する。そして互いに高め合える人材を育成する。この「開発」と「開拓」が森合精機の新たな一歩を支え、前進させる原動力となっているのではないだろうか。

OB・OG紹介

装置事業部 開発課

雪島 良太さん



2015年
工学部機械工学科 卒業

会社を通じて社会に貢献していきたい

「学生と社会人の違いとは」—そんな霧(もや)を払うようなお話を伺うことが出来た。

雪島良太氏は現在入社5年目。大学では設計を含む工業デザインやアイデアが生み出される思考のプロセスを工学的に研究していたが、目に見える形でモノづくりに携わりたいという思いからメーカーに興味があり、森合精機に入社した。神戸大学での合同説明会で人事の方と接する機会があり、その中で会社の規模も含め、自分の能力を活かして会社に貢献することが出来るのではと感じたことが入社を決め手となったという。現在は森合精機の主力製品である洗浄機の研究開発を担当しており、お客様に「使いやすそうだな」と思ってもらえるようなモノづくりを意識して開発を行っている。

森合精機はお客様のニーズに合わせて毎年新たな製品の開発に尽力している。新製品の研究開発にはどうしても時間的な制約もあるというが、自由なやり方で新しいモノを作れることがこの仕事の面白さだと雪島氏は語る。入社後の1年間は設計部門でお客様向けの機械を3台ほど設計したというが、新製

品の研究開発ではこの頃に培った経験や知識が大きく活かされているという。「開発では自分の経験、知識からしか生み出せないの、インプットを増やすようにしています。設計の1年間で培ったものに加えて、他社の製品の分析、技術系の論文に目を通して技術的なヒントが無いかと探しています。」雪島氏の言葉からは尽きる事のない学びの姿勢と、学んだ知識を意図的に活かそうとする姿勢が強く感じられる。

入社後数年が経ち、社会人になってからの意識の変化を尋ねると、とても印象的な言葉が返ってきた。「神戸大学まで行かせてもらって、親や社会に何か還すことが出来る能力を持っているのなら、それを活かした方が良いのかなと。自分の満足や達成感もあると思いますが、会社が良くなれば自分の環境も良くなる。会社への貢献を通じて社会に貢献していきたいですね。」仕事や社会への責任感を纏うその言葉は、疑いようもないほどに「学生と社会人」の違いを示していた。